

# 令和5年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 実施報告

南陽市教育委員会 学校教育課

## 1 目的

本セミナーは、中学校2年生を対象に、南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色のある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地域創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成することを目的とする。

2 期日 令和6年1月18日（木）～1月20日（土） 2泊3日

3 行き先 沖縄県糸満市

## 4 研修内容

### (1) 事前研修会（全3回）

第1回 令和5年12月17日（日） 9:00～12:00 南陽市役所  
『沖縄県への関心を高める導入とリレーション作り』

- ・本事業について知る。
- ・参加者同士のコミュニケーションを図り、仲間意識を高める。
- ・南陽市の特色（魅力と課題）を考える。



第2回 令和5年12月23日（土） 9:00～12:00 南陽市役所  
『糸満市の中学生との交流会の持ち方を話し合う』

- ・中学校との交流会の具体的な内容を決定する。
- ・当日までに準備することを確認する。



第3回 令和6年1月13日(土) 9:00~12:00 南陽市役所

『交流会の準備・リハーサル、役割分担、最終確認』

- ・現地中学生との交流の進め方を確かめる。
- ・あいさつなどの役割分担を決定する。



## (2) 沖縄県糸満市訪問

### 第一日目(令和6年1月18日(木))

多くの方々に見送られ南陽市役所を出発した。バスの中では、JTBの佐々木社長から全行程の確認と沖縄県や戦争に係るお話をお聞きしながら空港に向かった。仙台は快晴、今回参加の12名中10名が初めての沖縄訪問であった。

予定通り那覇空港に到着、天気は晴れ、気温は25度。バスガイドさんから三線を演奏いただいたりしながら温かく歓迎された。はじめに、旧海軍司令部壕に行き、当時のまま残る戦跡に衝撃を受け、一気に参加生徒の雰囲気が変わった。次に首里城公園に行き、令和元年の火災以降、復旧の歩みを進めている現状を見学した。確実に復旧は進んでおり、本殿の建設も進んでいることが分かった。また、沖縄の自然崇拝の精神についてガイドさんの説明から学んだ。

ホテルに到着して美味しい夕食を食べ、1日目の反省や感想を生徒のリードで発表しあった。意見発表が単方向のみにならないように、人の意見に対してどう思うかを重ねていく話し合いをすることができた。2日目の行程や目標を確認して、1日目の活動を終えた。

### 第二日目(令和6年1月19日(金))

快晴で、気温も高く、日差しも強い。初めに訪れたヌヌマチガマでは、現地の平和ガイドの方より案内と説明をしていただいた。暗くひっそりとしたガマの中で、当時の状況を思いはかり、息をひそめながら生活、医療に従事していたことを想像し、胸が苦しくなり涙を流す生徒もいた。次に、平和祈念公園で平和の礎の説明を聞いた。また、リニューアルされた平和祈念資料館では、特設コーナーや映像資料を基に、戦争の犠牲となった方々に手を合わせた。さまざまな思いに触れ、改めて戦争の悲惨さと、平和について考えるきっかけとなった。その後、ひめゆりの塔とひめゆり平和祈念資料館を見学した。自分たちと変わらない充実した学生生活を送っていた多くの女学生が、戦争のための教育に代わり、夢半ばで亡くなったことを知りショックを受けていた。昼食後は、山形の塔で献花をし、山形県の戦没者の方々に向けて黙とうした。

そして、いよいよ準備を重ねてきた糸満市立糸満中学校との交流会。2年生全員による温かい歓迎を受けて、交流会を開始した。平和について、食生活の違いについて、環境や学校生活の違いなどの話題が飛び交い、各学級で活発な交流ができた。最後にプレゼントを渡したり写真を撮影したりして、交流を更に深めることができた。糸満中には、糸満市や糸満中について紹介映像の発表、我々で準備した方言クイズなどへの積極的な参加、平和と交流の「はしわたし」という意味でお箸のお土産など、心のこもった対応をしていただいた。

その後は民泊家庭での宿泊体験。それぞれの家庭で夕食を一緒に準備し、琉球衣装の着付け体験、ストラップづくり、サーターアンダギーの調理、三線の演奏など、沖縄ならではの体験をたくさんすることができた。

### 第三日目（令和6年1月20日（土））

民泊家庭で朝を迎え、ホストファミリーの計らいで、地域住民の方と三線の演奏などさらに交流の広がる体験をしたグループもあった。民泊解散式に集合した際には、わずか一晩だけの民泊体験だったが、本当の家族のように関わっていただいたことで、寄り添いながら笑顔で語りあうホストファミリーと生徒の姿があった。今後の連絡や再会を約束し、お別れした。

その後、瀬長島のウミカジテラスを車窓から眺めながら、空港に向かった。バスの中では、ガイドさんから沖縄の方言の歌などをプレゼントしていただき感激していた。空港や飛行機の中では、名残惜しそうに沖縄の地を眺める様子が見られた。

仙台空港から市役所に到着するまでのバスの中では、3日間で特に心に残ったことなどを一人一人が自分の言葉で語りながら過ごした。解散式では、代表生徒が、「この体験を通して学んだことを自分達だけのもので終わらせることなく発信し、自分自身も今後の生活に生かしていきたい。」と発表し、意気込んでいた。

- (3) 事後研修会 令和6年1月27日（土） 9：00～12：00 南陽市役所
- ・セミナーを通し、これからの南陽市に向けた自分たちの考え、発信のしかたをまとめる。
  - ・糸満市の中学校や民泊家庭へのお礼状を書く。
  - ・一番印象に残ったこととこれから自分（たち）がすべきことについて発表する。



## 5 参加生徒の感想等

### ○「平和」について

私たちと同じように平和な毎日を送っていたはずの彼女たちが、「なぜ戦争に参加しなくてはいけなかったのか」と強く疑問を持つようになり、そして、平和とは何なのか考え直すようになりました。生存者の証言映像も拝見し、当時の状況がいかに残酷で恐怖だったのかこれまで以上に深く知ることができました。

この世の中には、戦争はどんなに恐ろしくて、悲惨なことなのかわからない人はたくさんいると思います。今回学んだことを無駄にせず、少しずつこの世の中に広めていきたいと思っています。

### ○人の温かさについて

実際に沖縄に行ってみて、フレンドリーで心が温かい人がたくさんいる沖縄は、戦争という悲惨な出来事と向き合い、そして前を向いて進む中で生まれた温かさなのだと感じました。

### ○交流と文化の違いについて

私のグループでは「食文化と自然」をテーマに交流をしました。クイズも盛り上がり楽しい雰囲気での交流会となりました。糸満中からの発表では旧暦の文化が強く息づいているため、お正月は2月10日ということや、周りが海で囲まれている糸満市だからできる糸満ハーレーという伝統のお祭りのことを教えていただきました。交流の中でも校舎の中を土足で歩いている様子を目の当たりにしてとても驚きました。私にとって学校内を土足で歩くという概念は全くなかったので視野が広がるきっかけとなりました。



旧海軍司令部壕



首里城公園



ひめゆりの塔



平和祈念公園



ヌヌマチガマ



優美堂（昼食）



山形の塔



糸満中との交流会



民泊（琉装体験）



民泊（三線体験）



民泊解散式